

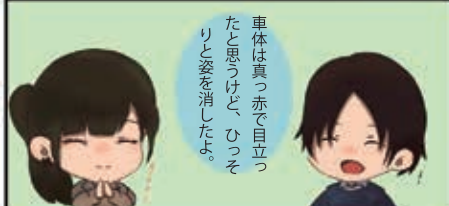
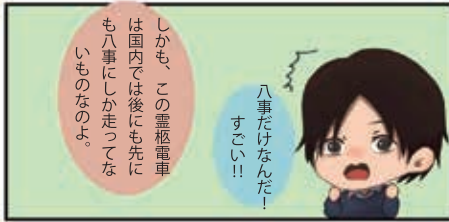
八勝館正門



萱葺(かやぶき)の門は当時のままで別荘の雰囲気を伝えてます。八勝館は

広大な庭園を持ち、敷地内に現在はイオン八事店やマンションが建っています。

<霊柩電車>



しかし、1935年に市営の東山公園、37年に東山動物園が開園すると客足が遠のき、遊園地は閉園に至ります。八事電車は名古屋市に買収され、1937年名古屋市電となりました。

八事電車が開業した頃から、八事は名古屋の保養地としての性格を強め、多くの別荘が建てられました。1925年に豪商の別荘を利用して八勝館が料理旅館として営業を開始すると、政財界の社交場とて使われました。

閑静な環境から、1914年には結核診療所が開設されず(現日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院:愛称やごにつせき)。広大な土地を活かして「尾電八事球場」のほかにも「山本球場」「名医大球場」「中京球場」がありました(名医大球場の跡地は現中京大学名古屋キャンパスグラウンド、中京球場の跡地は、現中京大学附属中京高等学校です)。

1932年に南山中学が開設し、その後1942年に名古屋大学が移転したのを皮切りに、南山大学、日本福祉大学(現在は移転)、中京大学、名城大学が置かれ、八事は名古屋を代表する文教地区となります。

八事丘陵地の地形を生かした計画的な住宅地開発も行われ、名古屋を代表する高級住宅地ともなっています。住宅地となった八事一帯には商店街も形成され、イオン八事店などの大型商業施設も進出しました。名古屋市電は1971年に廃止され、その6年後の1977年に地下鉄鶴舞線、2004年に名城線が開通しました。

八事はいつの時代も人々で栄える魅力のある街となっています。

センバツ発祥の地モニュメント



山本球場の跡地に建てられたモニュメントでモチーフはボールとバット。サザンヒル八事というマンション内の公園にあります。山本球場では今日の選抜高校野球大会の第1回大会や、プロ野球の公式戦が行われました。

知ろう！



～登場人物～



かつて八事一帯は名古屋の東の外れの辺りな場所、小高い丘がいくつも並ぶ丘陵地でした。その名残は今日でも坂の多い街並みや、八事山、音聞山、八幡山といった町名にみられます。これらの丘は江戸時代以降になって景勝地として有名になります。

なかでも音聞山は代表的な景勝地で遠く鳴海の潮騒の音が聞こえることから名づけられ、山からは海を展望することができました。

八事の歴史を興

江戸時代(1603～1868)初期に家康の命により名古屋城下と岡崎城下を最短距離で結ぶ街道(飯田街道)が整備されます。八事から東側は峠越えの道になり、その手前の街道沿いに、1688年、興正寺が建立されました。興正寺は広大な敷地を持ち、裏手の雑木林(現興正寺公園)は昔の丘陵地の面影を残しています。

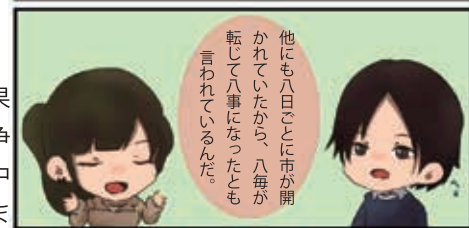
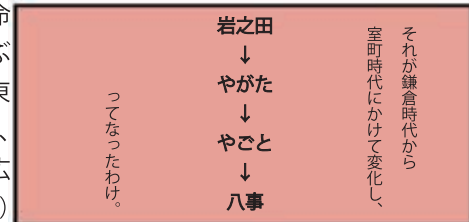
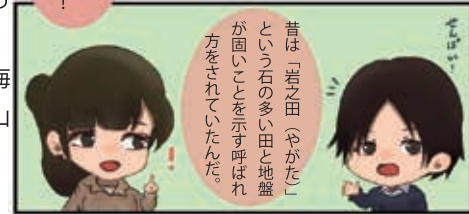
興正寺は有事の際に軍事的拠点の役割を果たすことも想定されていました。しかし、戦争の危険性がなくなると、八事一帯は興正寺を中心とする信仰の地として発展することになります。人々の間では参詣を兼ねて山遊びをする「山行き」と呼ばれる行楽が流行り、多くの人で賑わったのでした。

1908年に山行きの人出を見込んで八事まで馬車電車が敷かれました。その後1912年に電化により尾張電気軌道(通称八事電車)となります。鉄道会社は観光客を増やすために、「八事遊園地」「尾電八事球場」などの施設も建設しました。遊園地には、競馬場、ボート池、すべり台などがあり、蕎麦まんじゅうや八事の蝶々が八事名物として親しまれました。

1914年に名古屋市営の「八事墓地」(現八事霊園)が誕生すると、八事電車は終点を八事墓地まで伸延し(墓地線)、墓参や葬式の客も取り込みます。

このように、現代の私鉄経営のモデルとして知られている、鉄道と移動の目的となる場所をセットで開発する先進的経営がすでに行われていました。

<地名の由来>



昭和区の今昔についての案内板



興正寺前の歩道に「昭和区の今昔」という案内板が立っています。八事の歴史について説明されており、江戸時代の興正寺の門前町や、名古屋市電の写真を見ることができます。